

教学課の職員と学長が
泥にまみれて大奮闘

「あつ、あの辺見てみ。ばわいって光つてるで」「ほんまや、けっこう居てるわ」「なあ、あれってホンマに虫なん!?」川面に浮かぶ幻想的な光が動くたび、見物に集まった人々から明るい声が弾みます。これはあるホタル鑑賞会でのひとコマ。どんな山奥かと思いきや、藤井寺駅から徒歩約5分、大阪女子短期大学キャンパス内でのイベントです。

「もともと森林公園だった本学には、今も豊かな樹木が生い茂り、池と小川も設えています。これらをうまく活用することで、地域の人々に喜んでもらえれば。そんな思いから2009年に発足したのが、ホタルプロジェクトです」。そう話すのは、同大教学課の志摩憲さん。子ども達に自然保護の意識を芽生えさせるきっかけになれば良い、と話されました。

まずはホタルの名所、奈良県某所まで現地調査に出発。そこにはプロジェクト

の発案者であり牽引役でもある中野長久学長の姿もありました。次に、ホタル成育の第一人者・岡本欣也さんに協力を仰いで、川辺の環境づくりを開始。教学課の職員や学長が作業服に着替えてスコップを握り、川沿いの土を起こす姿に目を丸くする学生も多かったとか(笑)。環境整備が進んだ秋には、幼虫の餌になり、また適切な水質づくりにより「役買うカワニナ(巻貝の一種)」を大量に放流。年が明けると、ホタルの幼虫100匹を放ちました。果たして幼虫は無事に春を迎え、岸辺の寝床でさなぎとなり、成虫となつて再会できるのでしょうか。

子ども連れを中心に
予想を上回る見学者が来校

6月のある日、志摩さんのもとに朗報が届きます。ついに待望の成虫が姿を見せたのです。しかし、ホタルの寿命は長くはありません。すでに準備を進めていた地域交流イベント、「ほたるのゆうべ」開催日を2週間後に決定。広報については

市役所にも協力を願い、近隣の小学校や幼稚園などにもチラシを配布しました。そして迎えたイベント当日、予想をはるかに上回る約550人もの見学者が来校。ホタルはあちこちを飛びまわり、見学者の目を大いに楽しませました。「皆さんから『ありがとう』『来年もよろしくね』などと声をかけられ、努力が報われた思いです。また、こうした活動を通じて少しでも自然環境への関心を高めてもらえたなら、これ以上の喜びはありません」。

本年はホタル幼虫の放流量を倍増しており、さらなる光の乱舞が期待できる様子。またイベント後は成虫を管理して産卵、ふ化させるとか。この場所が身近なホタルの里として定着する日も遠くないかもしれません。

※現在、ホタルプロジェクトでは同大の学生はもちろん、一般の方からもボランティア、スタッフを募集中。自然の大切さを学び、ふれあう楽しさを味わえるのはもちろん、自分が育てたホタルの輝きを見る喜びはきっと格別ですよ。



大阪女子短期大学
教学課 教学担当チーフ
志摩 憲さん
しま けん

第2回大阪女子短期大学ホタルまつり
「ほたるのゆうべ」
日 6月17日(金) 時 18:00 ~ 20:00
場 大阪女子短期大学図書館前
料 無料
●ホタル自由鑑賞
(捕獲・持ち帰りは禁止)
●夜店
(昨年はポップコーン、かき氷、ヨーヨー釣り(無料))
●おりがみ講座
①18:00 ~ ②18:30 ~
問 大阪女子短期大学 事務局教学課
(志摩、菅原)
☎ 072-955-0733

大学キャンパス内での
ホタル放流見学会を通して
地域の人々と交流し、
自然の恵みをわかちあいたい。

わあっはっは！ 笑う角には福来る。
みんなで健康になりましたよう！

笑いについて総合的かつ多角的に研究する。笑いの福徳を世の中に広める。これらをテーマに活動しているのが「日本笑い学会」。1994年7月9日(泣く日!)に設立され、私は2010年7月から会長を務めています。

私が皆さんにぜひ知ってもらいたいのは「笑いが健康に良い」ということ。その根拠として「ユーモア療法」が挙げられます。笑いの効能を病気の予防や治療に活かすもので、近年ますます注目を集め、そのせいか同会の会員に占める医療関係者の割合はどの職業よりも多い様子。大阪府立健康科学センターでも免疫力の強化など、笑いがもたらす影響について研究が進められています。

本学会は、笑いへの関心さえあれば入会できる「市民参加型」です。入会動機も人それぞれで、「コミュニケーション術に応用したい人からビジネスに役立てたい方、単に面白そうだからと

いうお笑い好きも少なくありません。

最初は「聞く側」として入会しながらも、いつしか「話す側」に移りたくなる方も。そうした場合は「笑いの講師団」に参加して頂きます。芸をして笑わせたり、笑いの福徳を論じたり、演目にはこだわらせません。ちなみに私は、何でもこなす全方位型を自認。落語や漫才はもちろん文学や芝居、映画、オペラからも笑いの要素を抽出し、披露して皆さんの笑顔を誘います。

笑いと言えは大阪のイメージが強

いですが、これを証明する立派な(?)

記録もあります。手前味噌ですが、関西大学では最近、笑いの量を横隔膜の震えから生じる微弱電流で測る機械を発明しました。これを「アッハ計」と言い、アッハは単位に当たるもの。「今の笑いは3アッハだ!」なんて言うわけです。本学以外でも喉の震えを測る、頬の筋肉を測る、腹筋を測るなど計3機種が生まりましたが、すべて在阪の大学やメーカーで開発されたもの。こんなアホな機械を作ること自

体に笑えますよね(笑)。

最後に笑いをもっと生活習慣に採り入れる方法を教えます。それは、つねに笑いを待ち構えること。自ら笑えるネタを探す姿勢も大切です。とくに面白いコトが無くて無理やり笑う、といった荒技も。こうした繰り返しにより、笑いに対して敏感になっていきます。手っ取り早いのは「日本笑い学会」へ入会すること。人生笑ったもん勝ち。あなたも同会に、いらっしゃい!

すこ
やか 達人

森下 伸也さん
もりした しんや

日本笑い学会会長
1952年 生まれ
2009年 関西大学社会学部教授
2010年 関西大学人間健康学部教授
担当科目/社会学入門
笑いの人類史
ユーモア思想論
ユーモア社会学
ユーモアコミュニケーション論